

平成23年3月11日

# 東日本大震災から1年

昨年起きた東日本大震災から1年が経ちました。いろいろな思いで、この1年を過ごされた方々がいらつしやることと思います。あらためまして、東日本大震災で被害を受けられたみなさんへ心よりお見舞い申し上げます。

戦後最大の被害をもたらしたと言われる東日本大震災ですが、今なお、復興にむけた活動が続いております。同時に、今後の大規模災害を見据えて、災害対応に関する多くの教訓を学ぶ必要があります。



## ◀被災後の現地の家屋～

まず、自然の恐怖を感じ、その後、自然と涙があふれてきました。

平成23年6月25日から7月4日まで、岩手県宮古市、同県山田町で支援活動を行ってきました。

山田町は津波の襲来の後、火災が発生し、市街地が広範囲にわたって被災していました。100日を過ぎてもなお時々感じる焦げくささ、目の前に広がるどこか黄色い何もない市街地にまず驚き、続いて自然の強大な力に対する恐怖の念がわき起こったことが今でも鮮明に思い出されます。

そんな被災地で、被災された方々が手をとりあって前に進んでいく姿を見ました。自立した避難所を運営するために尽力する自治会員の女性と、避難所にいるご老人から子どもたちまでがその方に賛同し協力している様子にとっても感銘を受けました。洗濯物を屋外の洗濯機のあるところから屋内の物干し場まで運ぶご老人、食事の時間になるとそれぞれ遊びや勉強の手を止め配膳を手伝う子どもたちなど、どんな人も、自分に出来ることは何かを考え、自分に出来る範囲のことを行うことが、スムーズな避難所の運営に繋がっていくのだとわかりました。

被災地に赴き被災者の方々の姿を見て、地域とは何か、人のつながりとは何かということを考える良いきっかけになりました。



総務課防災担当 佐藤綾子さん

## 本町でも大地震が予測されている!?

本町にも大きな影響を及ぼすと考えられる想定地震があり、①千島海溝地震(海溝型地震)、②十勝平野断層(内陸直下地震)がそれにあたります。特に十勝平野断層による地震が発生すると、上士幌町の多くの地区で震度6強から震度6弱の強い揺れ、一部の地区で震度5強が予測されています。

大地震が起こると、建物の倒壊や家具の転倒や落下による死傷者が多く発生します。地震などの災害が起こることを防

### ■ 防災は日頃の備えから

地震や台風などの自然災害は、いつどこで起こるか分かりません。災害時にはまず、自分の身は自分で守る「自助」が基本になります。自助の備えを平常時からするには、十分なリスク認識が不可欠になります。「もしも」のときに自分の身に

### ■ 大地震から身をまもるために

災害対策は、企業、行政、学校だけでなく、世帯も含めた個人や町内会などの地域コミュニティなどそれぞれが、自身の役割をしっかりと認識し、適切に対応することが必要です。

行政は、地域の防災力を高めるための方策や災害時の復旧を行政レベルからサポートすることが主な役割です。町内会は、地域住民の安全を住民どうしのつながりの中で支え合うことが大きな役割です。個人の役割は、自分と家族の身を個人レベルで守ることです。

ぐことはできませんが、起こった場合に少しでもその被害を少なくすることはできるはずですが、そのためには、家庭や職場、そして地域において災害に対して日頃から考え、備えていかなければなりません。町では、平成24年度から地域防災計画の見直しを行う予定です。現行の問題、課題を検証し、東日本大震災の教訓を踏まえ、上士幌らしさを活かした計画づくりに努めて参ります。みなさんのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

何が起こるのか、周りがどうなってしまうのか、災害時の状況を想像できれば、ふだんの心がまえも変わってきます。まずは、具体的な災害を想像することから始めてみてはいかがでしょうか。

① 我が家が地震で大丈夫か確認しましょう。

※町では診断に係る経費の一部を助成する制度を設けています。

② 家具の転倒等で怪我がないか確認しましょう。

③ 地震が起きたときの行動を家族で話し合いましう。

※家族の安全確認、役割分担、避難場所、家族が離れ離れになった場合の連絡方法の確認などについて話し合いましう。

④ 定期的に右記を再確認しましう。

※防災に関するお問い合わせは、総務課防災担当(内線236)高田・佐藤まで